

化石研 ニュース

No.128 2017/03/14

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

第35回化石研究会 総会・学術大会

プログラム

第35回化石研究会総会・学術大会（通算147回）を、下記日程で開催いたします。
今回の会場は、福井県立恐竜博物館（福井県勝山市）です。
会員の皆様の参加をお待ちしています。ふるってご参加ください。

- 日時：2017年6月3日（土）・4日（日）
- 会場：福井県立恐竜博物館 研修室・実習室（福井県勝山市村岡1-6-1）
- 参加費：無料
- 概 容：

<一日目 6月3日（土） 13:00～17:15（予定）>

・ 記念講演（一般公開）「手取層群の恐竜動物群」

13:05～13:35 講師 野田 芳和（福井県立恐竜博物館）

・ シンポジウム（一般公開）

<手取層群の層序と生物相

-前期白亜紀の東アジアの陸上生態系の解明を目指して->

13:35～14:05 佐野 晋一（福井県立恐竜博物館）

「手取層群の主要化石産地の時代論-熱河生物群との比較を目指して-」

14:05～14:35 大藤 茂（富山大学）

「碎屑性ジルコン年代分布を用いた日本の白亜系の後背地解析」

14:35～15:05 矢部 淳（国立科学博物館）

「『手取型植物群』研究の現状と課題」

（15:05～15:20 休憩）

15:20～15:50 宮田 和周（福井県立恐竜博物館）

「手取層群の哺乳類化石研究-福井県の例と日本の中生代哺乳類化石研究の展望-」

- 15:50～16:20 松本 涼子（神奈川県立生命の星・地球博物館）
「コリストデラ類とローラシア大陸の淡水動物相」
16:20～16:50 平山 廉（早稲田大学）
「手取層群のカメ類：その分類と生層序学的意義」
16:50～17:15 総合討論（17:32 発のバス乗車のため、終了時刻を厳守します）

《 懇 親 会： 6月3日（土） 19：00～ 》

事前申し込みが必要（5月19日締め切り、詳細は3ページをご覧ください）。

会費 6300円（コース料理+飲み放題 / 税込）

会場 八兆屋（福井駅から徒歩1分）<http://www.hacchouya.com/fukui/>

※ 会場への移動ルート 博物館 17:32-（バス）-勝山駅 17:44
勝山駅 17:49-（えちぜん鉄道）-福井駅 18:42

<二日目 6月4日（日） 10：00～16：00（予定）>

- ・一般講演（口頭発表／一般公開）・・・午前・午後
事前申し込みが必要（本ページ下半部～次ページをご覧ください）。
- ・一般講演（ポスター発表／一般公開）・・・午後
事前申し込みが必要（本ページ下半部～次ページをご覧ください）。
- ・総会（会員のみのみ）・・・11:15～12:00（予定）

一般講演（口頭・ポスター）の募集

第35回総会・学術大会の二日目（6/4）に実施する一般講演（口頭・ポスター）を募集いたします。以下の要領でお申し込みください。また、その他に発表等の展示物などの希望をお持ちの方がおられましたら、事務局までご相談ください。講演予定者で、当会からの派遣申請が必要の場合は、申込の際にその旨をご連絡ください。

講演申込（講演要旨送付）： 5月1日（月） 締切

申込方法：電子メール（次ページ）もしくはFAX（0274-60-1250／化石研究会 高桑宛）に

1. 講演者名、2. 所属・連絡先、3. 演題名、4. 口頭・ポスターの区分

を明記して、講演要旨を添付のうえお送りください。口頭発表でMacを使用する際にはその旨も明記してください。メール・FAXともに使用できない場合は、郵便にて上記内容を事務局までご連絡ください。

講演要旨の書式：一般講演の要旨はA4サイズ（縦）1枚に演題 14 ポイント、発表者名 11 ポイント、本文 10.5 ポイントとし、本文 1300 文字程度として作成してください。

一般講演の機材等につきまして：

- ◇ 一般講演（口頭）は、講演15分、質問5分を予定していますが、講演の申込み状況により若干の変更を生じる可能性があります。
- ◇ 一般講演（口頭）用のパソコンですが、世話人の方に Mac と Windows を1台ずつ用意していただく予定です。発表用ファイルはUSBメモリで渡せるようお願いいたします。
- ◇ 一般講演（ポスター）は、幅92cm×縦182cm（高さは支持脚30cmと併せて212cm）の有孔ボードに貼り付けていただく予定です（A0サイズでも掲示可）。
掲示用器具を準備します。

一般講演（口頭・ポスター）申込（講演要旨送付）先

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付
化石研究会事務局 宛
メールアドレス：BXJ04105@nifty.ne.jp

※ 一般講演の演題等については、次号の化石ニュースや当会ウェブページでご案内いたします。

懇親会（6/3）への申込み

事前申込みです（締切 5/19）!!

参加費 ¥6300（料理+飲み放題/税込）

[日時 6/3 19時～ / 会場：八兆屋〈福井駅前〉]

電子メール、FAX（もしくは郵便）で事務局宛にお申し込みください。

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付
化石研究会事務局 宛
メールアドレス：BXJ04105@nifty.ne.jp
FAX：0274-60-1250（化石研究会 高桑宛）

締切厳守でお願いいたします。

福井県立恐竜博物館へのアクセス

<会場（博物館）への公共交通機関>

●福井駅までのアクセス（東京からの交通例：東京－米原－福井－勝山）

東京 6:00－(のぞみ1号)－7:34 名古屋 7:37－(ひかり495号)－8:00 米原

米原 8:09－(しらすぎ51号金沢行)－9:14 福井 9:25－(えちぜん鉄道)－10:19 勝山

勝山 10:23－(バス)－10:37 博物館

●福井駅からのアクセス・・・福井－(えちぜん鉄道)－勝山－(バス)－博物館

福井 7:04－8:00 勝山 8:03－8:27 博物館

福井 8:05－9:01 勝山

福井 8:28－9:31 勝山 9:33－9:47 博物館

福井 8:57－9:48 勝山 10:07－10:19 博物館

福井 9:25－10:19 勝山 10:23－10:37 博物館

福井 9:55－10:48 勝山 10:59－11:11 博物館

福井 10:25－11:19 勝山 11:25－11:37 博物館

●バス便（例：東京から）

・中日本ハイウェイバス4号車(高速バスドットコム,中日本エクスプレス): 東京駅 22:20－6:25 福井駅東口

・Willer Express K5321 便夜行 (Willer travel) : バスタ新宿 21:55－8:00 福井駅東口

・キラキラ号 KR405 (さくら観光) : バスタ新宿 22:50－8:45 福井駅東口

・ドリーム福井3号 (京福バス) : バスタ新宿 24:05－8:36 福井駅東口

・昼特急 (京福バス) : バスタ新宿 12:25－20:00 福井駅東口

・ドリーム福井1号 (京福バス) : バスタ新宿 22:55－6:30 福井駅東口

<宿泊施設について（一島会員からの情報）>

●福井駅前・・・東横イン、ホテルルートイン福井駅前、ホテルエコノ福井駅前、ユアーズホテル、少し離れてホテルフジタ福井あたりが距離／価格／質のバランスが取れているかと思います（後二者は他の3つよりも少し高め）。

●勝山市内・・・勝山でホテルと呼べるのは勝山ニューホテル一件のみで、あとはみな宿です。結構な古さと聞いておりますが、実態はよくわかりません。ただし勝山ニューホテルから博物館に来るための公共交通手段はありません。宿の「板葺」の場合、博物館まで来るバスの停留所まで歩いて2、3分になります。

運営委員会の開催について

今回の総会・学術大会にあわせ、下記日程で運営委員会を開催します。

役員の方につきましては出席をお願いいたします。

日 時：6月3日（土）11:00～12:30

※ 会場等詳細につきましては、別途メール等で連絡いたします。

〈当日の昼食〉

博物館内に「カフェ&レストラン ディノ」があります。

会場と会期中の入館方法について

化石研究会の会場は、恐竜博物館2階にある研修室と実習室になります。

会場へは、博物館正面入口（3階扱い）から入り、もぎりを抜けたら、エスカレーター右横にある階段（エスカレーターには乗らない）で2階に降ります。階段を降りたら右折です。10mほど進んで突き当たりを右折すると受付が見えるはずですが、要所要所に「化石研究会会場→」の張り紙を貼ることを予定しています。

なお、総会・学術大会に出席する化石研究会会員については、大会期間中の博物館観覧料が無料となるように博物館にお願いしており、両日の会員の入館方法については現在調整を進めているところです（会員でない一般の方は入館料が必要）。詳しいことに関しては、次号の化石研ニュースでお知らせいたします。

14th International Symposium on Biomineralization

(BiominXIV, 第14回国際バイオミネラリゼーションシンポジウム)

のお知らせ

表記の国際学会が日本で開催されます。概要は以下のとおりとなっています。

会 期：2017年10月9日（月）～10月13日（金）

場 所：つくば国際会議場（茨城県つくば市）

主催団体：バイオミネラリゼーション組織委員会

ホームページ：<http://www.biomin14.jp/>

主要テーマ：

- 1) Emerging techniques in biomineralization
(バイオミネラリゼーション研究における新手法)
- 2) Crystallization and structure of biominerals (バイオミネラルの結晶と構造)
- 3) Molecular and cellular regulation in biomineralization
(バイオミネラリゼーションの分子及び細胞制御)
- 4) Genome-based analysis of biomineralization
(バイオミネラリゼーションのゲノムベースの解析)
- 5) Evolution of biomineralization (バイオミネラリゼーションの進化)
- 6) Medical aspects of biomineralization (バイオミネラリゼーションの医歯薬方面)
- 7) Bio-inspired mineralization (生物に学ぶ結晶鉱物化)

- 8) Biominerals as proxy of palaeoenvironments (バイオミネラルから古環境推定)、
 9) Mollusk shell formation (軟体動物の貝殻形成)

地球上の生物は多彩なバイオミネラルを形成し、利用しています。そのため、バイオミネラリゼーション研究は広く学際的で、結晶鉱物学、分子生物学、生化学、硬組織学、形態学から、材料科学、水産学、医学、歯学、古生物学、進化学など様々な研究分野にわたっています。最近では、電子顕微鏡などを用いて以前から行われてきた形態学と、生化学、分子生物学など近年発展した分野が結びつき、研究の新たな展開が進んでいます。それらの成果は基礎科学での硬組織の進化の解明などを始め、医学・歯学分野での骨や歯を対象とした臨床応用、工学分野での複合材料の新規開発、農学分野での高品質産物の生産応用などに結び付き、様々な形で人類に貢献しています。このような幅広い分野のバイオミネラリゼーション研究者が集まり、交流をすることは研究の一層の発展を導き、大変意義深いことです。さらに、国際学会は次世代の若い研究者を育てるためにも大切な機会です。



BiominXIV のポスター

この国際シンポジウムは、1970年ドイツのマインツで第1回の開催の後、数年間の間隔をとり世界各地で行われてきました。第13回国際バイオミネラリゼーションシンポジウムは2015年9月にスペインのグラナダで開催されました。日本では、第3回三重県賢島(1977年)、第6回神奈川県小田原(1991年)、第8回新潟県胎内(2001年)が開催され、今回で4回目となります。14回中4回を日本で開催するという事は、日本の研究者がこの分野で重要な位置を占めていることを示しています。

化石研は創立当初からバイオミネラリゼーション研究を重視して取り組み、成果を積み上げてきました。この国際シンポジウムには化石研会員は早くからかわり、毎回参加し、日本での前3回の開催では多大な貢献をしてきています。詳細は化石研会誌42巻3号「創設50周年記念特集号」(2010)、中でも大森昌衛論文(113-120頁)に述べられています。今回も化石研は後援団体となり、三島弘幸会長、笥光夫会員と笹川一郎が組織委員になっています。

伝統ある国際学会が国内で開催されるたいへん良い機会ですので若い研究者を中心に多数の会員の参加を呼びかけます。現在は、各セッションの核となる招待講演者がほぼ決定し、以前の参加者を中心に参加案内を配送しているところです。参加希望、あるいは詳細に興味のある会員は上記組織委員にぜひご連絡ください。さらに、財政的な支援も歓迎ですので、ご連絡ください。

(三島弘幸・笥光夫・笹川一郎; 文責 笹川)

第146回例会（琵琶湖博物館）報告

化石研究会第146回例会が、2016年11月20日に滋賀県立琵琶湖博物館で行われました。琵琶湖は古代湖としても有名ですが、その堆積物である古琵琶湖層群には約400万年の歴史が記録されています。

今回の例会は「琵琶湖とその生物相のおいたち」と題し、4人の方から発表がありました。例会は一般公開されたため、関心をお持ちの方が会員以外にも集まり、会場となったセミナー室はほぼ満席となりました。



会場の様子



講演中の里口保文さん
(琵琶湖博物館)

「琵琶湖の新たな地史を探る－水系の変化をどう読み解くか」(里口保文さん)では、約400万年前から現在にかけて、層相や古流向の変遷を概説されました。特に里口さんが専門の広域テフラについて検討され、東海層群・古琵琶湖層群・大阪層群と堆積盆をまたいで水系がどのように変化してきたかというアイデアを披露されました。過去に水系がどの時期にどのようにつながっていたかは、魚類をはじめとする古生物の分布にも深くかかわるので、それらを考える基礎を提供されました。

「琵琶湖の魚類の生い立ち－分子データからのアプローチ」(渡辺勝敏さん)では、近年遺伝子データを大量に速く分析できるようになってきたことから、従来のイメージが変わりつつあることを紹介されました。従来のイメージは、約40万年前に現在の大きく深い琵琶湖が成立してから固有の魚類が現れたというものでした。ところが近年、遺伝子データを大量に速く分析できるようになり、多くの固有種では現代型琵琶湖が成立する前から既に近縁種から分化していたことが示されました。琵琶湖の固有魚類相の成立過程は、従来のイメージよりも複雑であるようだ、とのことでした。



講演中の渡辺勝敏さん
(京都大学大学院理学研究科)



講演中の岡村喜明さん
(滋賀県足跡化石研究会)

「古琵琶湖層群と東海層群の足跡化石からみた鮮新-更新世」(岡村喜明さん)では、足跡化石を調べるために東南アジアやネパールで現生の哺乳類などの動物の足跡を観察された経験を紹介されました。足跡化石は国内のほとんどの産地で、長鼻類、サイ類、シカ類、ワニ類、トリ類の5種類しかみられないが、現生の観察ではもっと多くの種類の足跡がみられることから、足跡化石として残らないものがある可能性などを指摘されました。また、シカ・イノシシ・ウシの足跡の区別や、ゾウの年齢と足跡の大きさの区別など、課題も指摘されました。

「植物相からみた古琵琶湖の動物たちが生きた環境」(山川千代美さん)では、古植生の研究が紹介されました。河床に露出する化石林で産出する植物化石から、周辺の湿地や後背地の古植生を詳細に復元されました。この作業を2.6Ma、1.8Ma、0.8Maと年代の異なる3地点で復元され、温暖・寒冷要素の増減を考察されました。そして、今後もっと古い年代でも取り組みたいと意欲を示されました。



講演中の山川千代美さん
(琵琶湖博物館)

今回の例会は、琵琶湖に特化した内容で、層序と古環境、魚類相、四足動物、植物相のことが詳しくわかってきたことで、データを突き合わせるができるようになってきたことが興味深く感じました。総合討論がなかったことが残念でしたが、それぞれの分野で分かったことを互いに突き合わせることで、今後さらに研究が発展しそうな期待を感じるシンポジウムでした。



高橋啓一さん(右・琵琶湖博物館)と
三島弘幸会長(左)

ところで、ちょうど20年前(1996年11月23~24日)には、開館間もない琵琶湖博物館で化石研第107回例会が開かれ、シンポジウム「古琵琶湖層群とその動植物」が行われました(化石研究会会誌30巻第1号参照)。そして今回、開館20周年を迎えた同博物館で今回の例会が行われたわけですが、保存されなかった地層や足跡化石に注意したり、20年前には知ることができなかった分子データが議論に登場したり、と20年のあい

だに視野が広がったことに改めて驚きました。

最後になりましたが、世話人と当日の司会を務められた高橋啓一さん、会場のお世話をいただいた琵琶湖博物館の皆様に厚くお礼申し上げます。

(小西省吾)

最近発行された書籍の紹介

- ・「フィールドの生物学⑩ 深海生物テヅルモヅルの謎を追え！
系統分類から進化を探る」
東海大学出版部、(著) 岡西政典、2016. 5. 30 発行、¥2000+税
※ 第33回総会・学術大会で講演していただいた岡西さんの著書です。
- ・「絵でわかる古生物学」
講談社、(監修) 棚部一成、(著) 北村雄一、2016. 6. 10 発行、¥2000+税
- ・「ザ・パーフェクトー日本初の恐竜全身骨格発掘記
ハドロサウルス発見から進化の謎まで」
誠文堂新光社、(監修) 小林快次ほか、(執筆) 土屋健、2016. 7. 25 発行、¥2000+税
- ・「スミソニアンに恐竜がやってきた！」
六耀社、(さく) ジェシー・ハートランド、(やく) 志多田 静、2016. 7. 25 発行、
¥1600+税
※ こども向け絵本ですが、恐竜の全身骨格の発掘から博物館で展示にいたるまでのプロセスを紹介しています。
- ・「琵琶湖博物館ブックレット① ゾウがいた、ワニもいた琵琶湖のほとり」
サンライズ出版、(著) 高橋啓一、2016. 8. 10 発行、¥1500+税
※ 昨秋の例会 (p. 7-8) の世話人である高橋啓一会員の著書です。
- ・「NHK スペシャル 完全解剖ティラノサウルス 最強恐竜 進化の謎」
NHK 出版、(編) NHK スペシャル「完全解剖ティラノサウルス」制作班、
(執筆) 土屋健、2016. 9. 30 発行、¥1000+税
- ・「ニュートン別冊 ビジュアル恐竜事典 恐竜の種類、生態、進化がよくわかる！」
ニュートンプレス、(著) 大橋智之ほか、2017. 1. 5 発行、¥2593+税
- ・「The Teeth of Non-Mammalian Vertebrates」
Academic Press、Bekovitz, B. and Shellis, P.、2017
※ タイトルどおり、哺乳類を除いた脊椎動物の歯だけを取り扱った専門書。

(事務局 高桑)

第148回化石研究会例会の開催地のお知らせ

2017 (平成29) 年・秋期 (具体的日程は協議中です)

開催地として「岩手県久慈市」を予定しています。

詳細については決定次第、会ウェブページ、化石研ニュースでお知らせいたします。

>>> 事務局だより <<<

- 発行が当初予定より遅くなってしまいました、会員の皆様にご心からお詫び申し上げます。
- 5～6ページの笹川会員の記事でご紹介している第14回国際バイオミネラリーゼーションシンポジウムは、当会も後援いたします。
- 7～8ページの例会参加報告、今回は小西省吾会員に執筆していただきました。どうもありがとうございました。
- 2016年12月27日、高橋正志会員（元日本歯科大学新潟短期大学）が逝去されました。高橋会員には、長らく会誌編集委員を担当していただきました。また近年の総会・学術大会の折には、一般講演のみならず、総会の際に会員代表として議事進行を幾度となく引き受けていただきました。謹んで、ご冥福をお祈りいたします。
- 会誌やニュースの送付先（ご自宅、勤務先）が変更となった際には、事務局までご一報ください。
- ニュースを郵送している会員の皆様には、ゆうちょ銀行の払込取扱票を同封いたしました。
「2017年度会費」の納入をお願いします。年会費は前納となっております。なお、ニュースをメールでお送りしている会員の方には、払込取扱票を別途郵送します。年会費は以下のとおりです。

年会費 4000円（学生2000円）

郵便振替 00100-7-633288 化石研究会

※ 納入状況は、会誌等の発送封筒の宛名ラベルでご確認ください。

2016年以前の会費が未納となっている方は、併せて納入してください。

3年間、会費未納の会員は除籍となります。

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1 群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

TEL: 0274-60-1200 / FAX: 0274-60-1250 / E-mail: BXJ04105@nifty.ne.jp

ウェブページ <http://kasekiken.jp/>

郵便振替口座 記号番号 00100-7-633288

名称 化石研究会（カセキケンキュウカイ）

年会費 一般4000円（学生2000円）

この化石研ニュースは、上記の化石研究会のウェブページでも見るすることができます。現在、紙でニュースが郵送されている方の中で、紙で送らなくても良い方は是非ご連絡ください。費用と労力の削減に御協力ください。